

昭島市の歴史的背景及び自然的背景

1 歴史的背景

- (1) 昭島市の市域は、南向きの段丘に位置し、陽当たりがよく、豊かなわき水にも恵まれ、居住環境には適していたと考えられる。多摩川に沿った河岸段丘で発見された縄文遺跡（林ノ上遺跡や上川原遺跡など7つの遺跡がある。）などにより、9千年以上も前から人が住んでいたことを知ることができる。
- (2) 鎌倉時代には、武蔵野台地の開墾が進められた。昭島市の市域においても、この頃には多摩川の河岸段丘に沿って居住地域が存在していた。人々は、多摩川の水や豊富なわき水を、水田や飲み水に利用していたことがうかがえる。
- (3) ちなみに多摩川は、万葉集には「多麻川」として登場し、その他の古書には「丹波川」、「玉川」などとも書かれている。名前の由来は、「玉のような美しい川」で玉川 多摩川とするのが通説である。
- (4) 江戸時代には昭島市の市域は徳川領で、市域内には郷地、福島、築地、中神、宮沢、大神、上川原、田中、作目、拝島の10ヵ村（後に、作目村が田中村に合併され、9ヵ村となる。）があった。農村の生産力は向上し、これらの10ヵ村でも石高が増加した。この頃の多摩川には、拝島の渡し、築地の渡し、平の渡しの三つの渡しがあり、拝島の渡しは拝島村に運営権が与えられていた。
- (5) 明治時代になると、廃藩置県（明治4（1871）年）により、9ヵ村は、神奈川県に編入された。当時は、立川村を加え、10ヵ村の連合村を構成していたが、明治22（1889）年に市町村制が施行されると、立川村が分離した。その後、東京府編入（明治26（1893）年）を経て、明治35年には、拝島村も分離独立し、昭和の初期まで8ヵ村が続き、昭和3（1928）年に8ヵ村は合併により昭和村となった。
- (6) 明治5（1872）年には学制が公布され、市域で一番古い学校である玉川小学校が福島村私塾として生まれた。翌年には成隣小学校が執中学舎として、更にその翌年には拝島第一小学校が知遠学舎として開校された。
- (7) 昭島市の市域は、一時期、八王子、青梅など近隣の好調な製糸業に支えられ、養蚕が盛んであり、市内は青々とした桑園でうずめられていたが、日中戦争が始まった昭和12（1937）年に、昭和飛行機（株）や陸軍航空工廠などの軍需工場、軍施設が設置され、大桑田地帯であった地区も工場地帯として急激に変貌した。これに伴い人口も増加し、昭和16（1941）年、昭和村は町制を施行した。
- (8) 第2次世界大戦の終幕（昭和20（1945）年）とともに軍需工場は平和的産業に転向した一部を除き廃業し、旧軍施設は米軍に接收された。
- (9) 昭和29（1954）年、前年に町村合併促進法が施行されたことに伴い、昭和町と拝島村が合併して、昭島市が誕生した。「昭島」の名は昭和町の「昭」と拝島村の「島」を合わせたもので、両町村の恒久的和合と団結により一つになることを祈念してつけられたものである。このときの昭島市の世帯数は8,113世帯、人口は36,482人であった。

- (10) 昭島市となって以降、昭和 30 年代には工場の誘致が進み、市内各所に公営住宅が建設された。また、交通網の整備も進み、市民生活に関連した事業も着実に実施され、都市としての姿を整えてきた。都心の通勤圏に位置する地域性から人口も増加し、昭和 62 年には多摩地域で 15 番目の 10 万都市となった。
- (11) 平成に入ると、地域集会施設や高齢者福祉センターの建設をはじめとした各種公共施設の整備が図られ、平成 9 (1997) 年には、田中町一丁目に新市庁舎が完成し業務を開始した。
- (12) 平成 13 (2001) 年には「人・まち・緑の共生都市 あきしま」を将来都市像とした第四次総合基本計画を策定した。その後、保健福祉センターや水辺の楽校の整備、ISO14001 の認証取得、青梅線各駅のバリアフリー対策、コミュニティバス (Aバス) の運行開始など、市民が安心して快適に暮らせる施策を推進し、今後更に住みよいまちとして発展成長していこうとしている。

2 自然的背景

- (1) 昭島市は、都心から西方へ約 35 キロメートル、東京都のほぼ中央に位置している。
- (2) 東及び北は立川市、南は多摩川を隔てて八王子市と日野市、西は福生市に接している。
- (3) 昭島市の南部を西から東に流れる多摩川は、市面積の 10 パーセントほどを占める広さで、滝山丘陵や奥多摩の山々を望むことができる。また、市の北部には武蔵野の面影を残す雑木林に両岸を囲まれた玉川上水を有し、水と緑に恵まれた環境にある。
- (4) 昭島市は、交通網にも恵まれ、都心から 1 時間ほどの通勤圏にあり、また、同程度の時間で五日市や奥多摩の自然に触れることもできる。商業施設や文化施設へのアクセスにも恵まれ、暮らしやすい良好なロケーションにある。
- (5) 位地・地質などは次のとおり

位 置	東経 約 139 度 20 分 ~ 139 度 24 分 北緯 35 度 41 分 ~ 35 度 43 分
面 積	17 . 33 km ²
周 囲	19 . 58 km
東 西	06 . 06 km
南 北	03 . 88 km
海 抜	最高 170 . 72 m (拝島町六丁目 (乙) 60 番地) 最低 76 . 68 m (郷地町三丁目 3 番地先 河川部分を除く)
地 形	北西から南東に向かって、多摩川まで緩やかな傾斜を保っている。
地 質	多摩川沿岸の低地は、沖積層、その北側の台地は洪積層の武蔵野台地と呼ばれ、いわゆる関東ローム層に厚くおおわれている。また、このローム層の下には、豊富な地下水が含まれ、これが段丘の崖下などに露出して湧き水となっている。